

三才児保育の実態

大橋和子

環境整備については、三才児の特質を考慮し、特別の配慮をばらっています。定員二十名を二名の教師が担任し、保育室は、他の室から離れた位置にあり、家庭の生活様式からなるべくかけ離れないように、室内では椅子を使用せず、すわり机を使うこととし、便所は保育室に隣接しています。室内遊具は箱積木、抱人形、ままごと道具、幼児が乗って遊べるような乗物、動物人形などなるべく数

多く備えつけ、クレパス、鋏、のりなども、共同のものを、いつでも、誰でも使用できるようにしてあります。外遊びの砂場、足洗い場、砂遊び用具、箱ブランコ、三輪車、手押車なども、三才児専用のもを用意しています。

教育計画について大略しますと、二か年保育、一か年保育は、単元形式をとっていますが、三才児においては、登園、朝会、間食、昼食、ひるねなど、園全体の規定の時間以外は、独自の計画を持っています。

○身のまわりの始末など、日常生活のきまりを習慣づける。

○集団生活に必要な、基礎的なきまりを習慣づける。

○幼稚園の施設や遊具を十分使って、友だちと一しょに元気に、のびのびと遊ばせる。

○想像・創造の表現活動を活

発にし、自発性を養う。友だちとの協力の基礎を培う。

を主とした目標として、個々の幼児が自由に遊びを選択して遊び、いわゆる自由遊びを主流とし、音楽リズム（動きのリズム、リズム合奏など）、絵画製作、動植物の飼育栽培、劇あそびなどを適時、おこなっています。日常の生活習慣については、

自分の持ち物の始末、便所の使用、手洗い、うがいなどは、自分でできる環境をつくること、毎日規則正しくおこなうこと、よって、苦勞なく習慣づけられるようです。また、時間的なきまり、後片付けなども、きちんとした方が、安定感をもつようにおもわれます。

入園当初の姿を見ていますと、三才児の特質として、未だ完全に乳離れができず、非常に自己中心的で、遊具のとりあい

から、突発的に腕力にうったえるものが多く、ほとんどのものが並行あそびであります。しかし、同年令のものと遊びたいという欲求も強く、五月中旬になると、三、四人のグループもでき、役割もかなりはっきりとできてきます。また一つのグループと他のグループのむすびつきもみられるようになってきます。このような機会に、ままと遊びに助言を与えたり、水屋さんごっこ、乗物ごっこなどを計画し、友だちとの交渉を多くもつように指導助言します。また、集団との結びつきをつくる一助として、朝会の時、年長組の幼児に誘ってもらってフォークダンスをしたり、年長組の単元活動に招待してもらったりします。またこの時代の幼児は全生活が想像の世界だといってもいいほどで、ラジオやレコードをきいても、すぐ自分のおも

うまに表現することができま
す。おやつあとの休息の時間
や、昼食あとのひるねの時間
などに、経験したことや想像し
たことを自由に話します。

このような生活の中で、先に
掲げました目標を達成するよう
にとめております。こうし
て、三か年保育の第一年を終り
ますと、二十名の幼児を二組に
分けて、十名ずつとし、新入の
四才児二十名と混合して、三十
名編成として、あらたな一名の
教師が担任します。

ここに、三か年保育の効果は
どうか、ということをあきらか
に挙げることは、なかなかむず
かしく、一年間、幼稚園生活を
過ごした幼児と、新入園した幼
児とを比較して、厳密なデー
タを出すということも、困難な
てありますが、三才児保育を体
験し、また、四才児の混合組を
担任した体験から感じましたこ

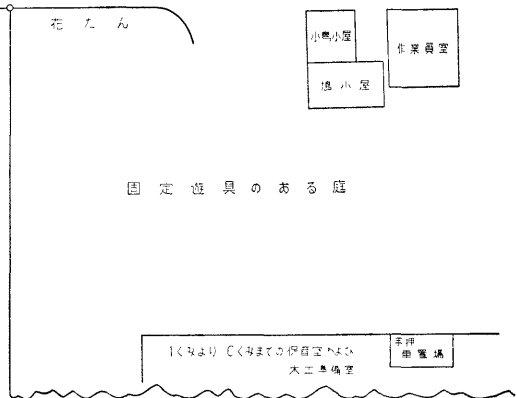
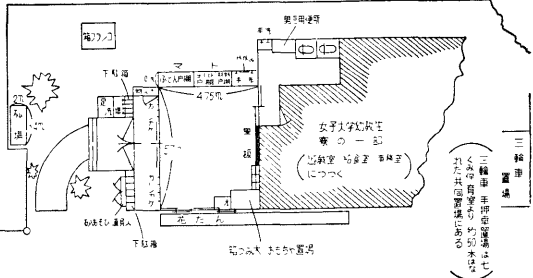
とを、三才児保育の効果と思わ
れるもの、および、問題点と思
われることがらを、二か年保育
の一年目の幼児との比較をも
とりまぜて、列挙してみたいと
おもいます。

○ 三才児として普通に成長発
達している幼児ならば、自分の
ことは、自分でし、小さな集団
に参加してゆく態度は、身につ
けられる。

○ いわゆる技能方面の早教育
をする目的ではないので、幼稚
園教育においては、技術につい
て、発達の段階を特に早めると
いうことはあまり望めない。

○ しかし、想像創造表現活動
については、この時代から、引
きだし、伸ばすことは効果があ
る。

○ 特に、負けん気や、羞恥心
か、あまり強く形づくられて
いないうちに、想像、創造
力、表現力を十分伸ばし、発



揮させることは、効果がある
とおもわれる。

○ このことについて二か年保
育の幼児と比較してみると、
・ 思っていることを、言語や
描画、製作、体の動きなど

て、豊富に表現し、発表する
ことにすぐれている。
・ 遊びを發展させたり、リ
ードしたりすることがじょうず
である。

○ 友たちと話し合ったり、相
談したり、協力して遊ぶとい
う態度の基礎はできてい

○ 自己を卒直に発表することができると、個性がはっきりしている。

○ その反面、保護される段階である三才の時代を幼稚園で過ごしたため、二年目になってもその習慣のこり、四才になつてから入園した幼児に比べて、自主自律への脱皮の機会をつかみにくい幼児がある。

○ 三才児は、乳児から幼児へのうつりかわりの時期であり、母乳による免疫がなくなつているので、はしか、水痘、耳下腺炎などの伝染性疾患にかかりやすいので、とくに身体的に虚弱なものは、発育を停滞されるおそれがある。

○ また、三才児においては、とくに生年月日の早いおそれによつて、発達段階の差が大きいため、集団生活の当初において劣弱感を抱くものがある。

○ 右のような状態で、例えば、体が小さい、足が弱い、言語不明瞭、などによつてきずかれた集団内においての位置からぬけ出せないものができる。

○ また、当園のように、三才児保育を受けたものと、二か年保育一年目のものと

の混合組を編成した場合、

・ 急に、三十名を一名で担任するため、三才児保育を受けたものが教師に対して要求不満をもつ。

・ 新入園児は、自分で遊びを選択したり発展させたりできないため、教師の指導面が多く出て、自由を束ばくされた感じを持つ。

・ しかし、また反面では、幼稚園生活全般にわたつてリードすることができるので、自信をつける機会でもある。

・ 新入園児を遊びに誘導し、いたわる態度を身につけることができる。

以上、思いつくままに羅列してきましたが、とくに問題とおもいますのは、身体虚弱児と、身体的・精神的発達のおくれている幼児——生年月日のおそい幼児も含めて——のとりあつかい方だとおもいます。

また、施設、設備、クラス編成と教師の数など、豫算の都合上、おもうに、まかせない面も多くありますが、教育内容について、口口、研究と努力を積みかさねていきたいとおもつております。

(奈良女子大学付属幼稚園)

幼児の教育 第五十八巻 第八号

八月号 ◎ 定価五〇円

昭和三十四年七月二十五日印刷

昭和三十四年八月 一日発行

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

編集兼 津 守 貞
発行者

東京都文京区大塚町三五

お茶の水女子大学付属幼稚園内

発行所 日本 幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

○ 本誌ご購入についてのご注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします。